

地域医療構想の実現に向けた具体的対応方針について

1 検証・見直しの方針

各医療機関における病床機能や 2025 年（令和 7 年）を見据えた今後の方向性（具体的対応方針）等を取りまとめ、その内容等について、毎年、「岩手中部保健医療圏地域医療連携推進会議」の場において、内容を確認するものである。

2 今年度の取組

2025 年（令和 7 年）9 月時点における各医療機関の病床機能や 2025 年（令和 7 年）を見据えた今後の方向性について検証した。

(1) 取組状況（詳細は資料 2 - 2 のとおり）

① 病床利用率

2018 年（平成 30 年）と 2024 年（令和 6 年）を比較して、11 病院のうち、7 病院で病床利用率が減少し、4 病院で増加している。

② 病床機能

	2014 年 時点の病床数 【医療構想 策定時点】	2018 年 時点の病床数 (A)	2025 年 9 月 時点の病床数 (B) 【今回調査】	2025 年の 必要病床数 (C)	2018 年 との差分 (B) - (A)	必要病床 数との 差分 (B) - (C)
高度急性期	270	50	50	135	0	▲85
急性期	861	1,008	798	438	▲210	360
回復期	188	302	480 注(未稼働 70)	555	178	▲75
慢性期	352	196	215 注(未稼働 50)	248	19	▲33
休棟中	(無回答) 29	195	38		▲157	38
合計	1,700	1,751	1,581	1,376	▲170	205

注：許可病床中、一部未稼働あり

- ※ 病床機能報告制度とは病院・有床診療所が医療機能の現状と今後の方向を自ら 1 つ選択し県に報告
「高度急性期」 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供
「急性期」 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
「回復期」 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供
「慢性期」 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能

③ 医療と介護の連携、在宅医療の充実に向けた取組

関係機関と連携した訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ等の取組が展開されている。

(2) 検証結果

2024 年（令和 6 年）4 月から北上駅前病院が開設するなど 2025 年（令和 7 年）の段階で不足している回復期を担う病床数が拡充されたが、一部の病床が未稼働であり課題である。

3 今後の対応

地域医療連携推進会議の場において、次年度策定する新たな地域医療構想及び県保健医療計画等や国、県の方針に基づき、各医療機関において作成する具体的対応方針について、引き続き検証していく。

4 個別の医療機関の病床数等の変更について

県立中部病院及び北上駅前病院で病床数等の変更の計画があり、病院部会・市町部会において協議し、了承を得ているもの。

(1) 県立中部病院

県立中部病院の結核病床 20 床のうち 18 床を一般病床に転換し、増床する計画について、新たに整備される病床機能と将来の当該圏域の病床機能ごとの必要量との関係と妥当性について検証したもの。

県立中部病院においては、一般病床は 8～9 割という高い利用率で冬期はさらに逼迫するという状況であるため、「結核病床のあり方検討会」で縮小するよう提言のあった結核病床 18 床を一般病床の急性期病床に転換を計画している。さらに、急性期としていた緩和ケア病床 24 床を、緩和ケア病床の特殊性から慢性期とし、県立中部病院全体の機能強化を図るもの。結果として一般病床が 18 床増床となるが、県立中部病院で許可されている病床数 434 床に変更は生じない。

当圏域は、県で定める「基準病床数」に対し「既存病床数」が 253 床下回っており、制度上、一般病床の増床は可能であり、また、県立中部病院の一般病床が 18 床増えるものの、病床機能としては当圏域において過剰である急性期病床が 6 床減床、不足している慢性期病床が 24 床増床となり、地域医療構想の推進に資するものと認められることから、了承されたもの。

表 1 県立中部病院の病床区分別病床数及び病床機能別病床数

	一般病床			結核 病床	計	
	高度急性期	急性期	慢性期			
令和 7 年度	50	364	0	414	20	434
令和 8 年度 (計画)	50	358	24	432	2	434
増減	0	▲6	24	18	▲18	0

(2) 北上駅前病院

北上駅前病院の病床種別は、現在、一般病床 50 床、療養病床 150 床、計 200 床であるが、地域の入院患者の医療ニーズ等を踏まえて、一般病床 60 床、療養病床 140 床に病床数の変更を計画している旨説明があり、圏域の病床機能には変更が生じないことから、了承されたもの。

表 2 北上駅前病院の病床種別別病床数及び病床機能別病床数

	一般病床	療養病床		計	
	回復期	回復期	慢性期		
変更前	50	100	50	150	200
変更後 (計画)	60	90	50	140	200
増減	10	▲10	0	0	0